

安全教育



第42号

令和3年
2月25日発行
発行責任者
横田 竜一

一般財団法人 横浜市安全教育振興会
〒231-0014 横浜市中区常盤町3-25サンビル7階 電話 045-662-7835 FAX 045-662-9831
メールアドレス: info@anshinkai.or.jp ホームページ: http://anshinkai.or.jp/

共済事業について、 新たな取り組みを始めます

理事長 横田 竜一



「命を最優先に家族でステイホームを。親戚や友人との楽しみは後に取っておいて」。

しかし年を越えて時間が経っても新型コロナウイルス感染症は収まるどころかその勢いを増し、首都圏はじめいくつかの県では緊急事態宣言の発出に至りました。しばらく「ステイホーム」と「楽しみは後に取っておいて」のがまんが続きそうです。会員の皆様、くれぐれもご自愛ください。

さて、もう少しで令和3年度を迎えますが、安振会は見舞金給付事業について、新たな取り組みをいたします。『ご加入に向けて(2021年度版)』にも記載いたしましたが、以下にその概要を述べさせていただきます。

1. 部活動中の事故(中学校及び高等学校生徒)への災害給付を始めます!

来年度(令和3年度)から中学校及び高等学校の部活動中の事故に対する見舞金給付を開始します。具体的には、日本スポーツ振興センターの給付額が1万円以上の事故を対象とし、日本スポーツ振興センター給付額の50%を安振会から上乗せ給付(※)します。給付の上限は5万円です。年間500円の会費でできる範囲の金額を計算した結果です。ご理解をお願いいたします。

※上乗せ給付とは、日本スポーツ振興センターの給付金に加えて安振会からも見舞金を給付することを指します。

2. 申請の方法は?

部活動中の事故に対する災害給付の申請については、学校のご担当者に申請書類等を整えていただきます。書類は学校から直接安振会に届けられます。したが

って、会員の皆様が手続きに関わることはありません。

3. なぜ学校管理下の見舞金給付を始めるの?

昭和62年の発足以来、安振会は児童・生徒の学校管理下外での事故に対する災害給付を実施してまいりました。その間、災害給付の実績は小学校の児童が年間2000~2500件、中学校・高等学校の生徒が年間200件ほどで推移してきました。安振会は『一人はみんなのために みんなは一人のために』をスローガンに共済団体として歩んできましたが、その趣旨は生かしつつも時代の要求に対応していく必要を感じ、中学校・高等学校の学校管理下の内、部活動中の事故に対する災害給付も行うことといたしました。

4. 中学校・高等学校生徒の学校管理下外の事故への見舞金給付はどのようなもの?

中学校・高等学校生徒の学校管理下外の事故への見舞金給付もこれまで通り行います。学校管理下外の事故への見舞金給付に加えて、学校管理下の部活動中の事故に対する見舞給付を行っていくということです。学校管理下外の事故に対する見舞金給付の申請は、これまでと同様に会員の皆様にさせていただきます。

以上です。新しい取り組みについて、会員の皆様のご理解とご協力をお願いして巻頭言とさせていただきます。なお、ご不明な点がございましたら安振会事務局までお問い合わせください。

〈調査研究委託事業〉

横浜市立間門小学校

心身の健康づくりに自ら取り組む子どもの育成をめざして ～コロナ禍での教育活動の実践報告～

1 はじめに

本校は、昭和5年の創立以来、心も体も健康な子どもを育てることを学校経営の柱とし、学校教育目標を「健康を見つめ・つくる子、活かし・広げる子」として健康教育の充実と「知・徳・体」バランスのとれた健康な子どもの育成をめざして教育活動を行っています。

令和2年1月中旬、日本国内での最初の新型コロナウイルス感染症が見つかり、誰もが想像しなかった事態を経験し、1年が経とうとしています。新型コロナウイルス感染症予防対策を施しながら、本校の教育活動を継続していった取組について報告します。

2 すこやか活動を通して

本校では、体育・健康に関する活動を子どもたちの学校生活の中に日常的に位置付け、教育活動全体を通して取り組む4つの『すこやか活動』に取り組んでいます。

①すこやかテレビでの取組

毎月第2月曜日の朝会の時間を活用して保健目標について話をする「すこやかテレビ」による指導をしています。学校再開に併せて、6月2日に学校歯科医の荒木先生によるテレビ放送をすることを計画しました。

新型コロナウイルス感染症にかからないために①侵入を防ぐこと②定着を防ぐこと③発症を防ぐための生活についてイラストを見せながら話をしてくださいました。

うがいをすることや歯みがきをして口の中を清潔にしておくことが定着を防ぐ効果があることなど、6月の歯の衛生週間にも関連した内容もあり、子どもたちは熱心に聞いている様子がみられました。特に、うがいについては、飛沫をまき散らすことも懸念されることから、「学校等の公共の場所ではブクブクうがいをする(家ではガラガラうがい)」「うがいをするときは顔を低くして静かに吐き出す」ことも指導され、寒い時期になってからも保健委員会の子どもたちが呼びかけ、クラスに伝えにいくような活動を継続して行っているところです。

学校医、学校歯科医の先生は、健康診断だけでなく、本校の保健教育にも日頃から関わっていただいています。専門的な立場の方からのお話は子どもの

健康への意識の高まりにつながっています。



②すこやかタイムでの取組

中休みを活用して週に2回、体力づくりの時間として「すこやかタイム」を実施してきました。今年度は、場の制限やソーシャルディスタンスの点から実施が困難となりましたが、ラジオ体操に取り組むことにしました。11月の運動会に向けてラジオ体操の動きや動作のポイントなどをテレビ放送を通して伝え、テレビを見ながら、各クラスでラジオ体操の練習をしていきました。

③学校すこやか委員会(学校保健委員会)での取組

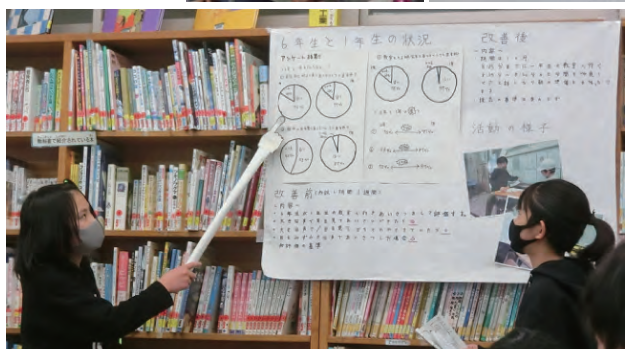
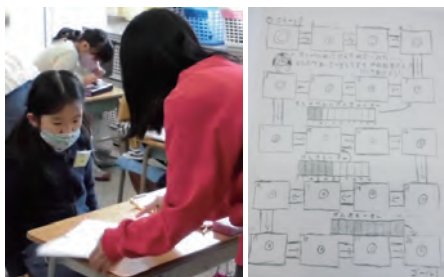
本校の学校すこやか委員会の運営の特色として、1・6年、3・5年、2・4年と2学年をペアとして上級学年が中心となり、一緒に取り組むスタイルをとっていることが挙げられます。すこやか委員の子どもたちがアンケートを取ったり、学年の課題を話し合ったりして、課題意識をもち、実践化を目指して取り組んでいます。

感染症対策から他の委員会活動が発足できない中でも、すこやか委員だけは早期に立ち上げ、テーマを「心晴れやか 笑顔あふれる 明るい学校をつくろう」と決定しました。例年は様々な行事ごとにテーマ設定をするところですが、テーマをこの1本にしばり、運動会等の行事においてもこのテーマに向かって取り組んでいくことにしました。



【1・6年生の取組】

自分からあいさつができていく人を増やしていくために、『笑顔でおはようキャンペーン』を実施しました。6年生が1年生の教室に行き、仲よしペア（1対1）であいさつや会話を交わすことで、1年生と6年生の距離が縮まり、あいさつをする人が増えたことを実感することができました。さらには、この取組から学校全体が明るくなったという報告もありました。1年生にとっては、6年生と毎日会うことが楽しみの一つとなり、関わり合うことでお互いを成長させるよい時間となっています。



【3・5年生の取組】

学年の実態から優しい言葉づかいについてもっと意識化を図りたいと考えました。各クラスにふわふわ言葉を掲示をしたり、ふわふわ言葉をクイズにして示したり、日常的に意識できるように取組を考えました。アンケート結果から高学年のほうが、自覚のないまま強い言葉を使っている人が多いこともわかりました。チェックシートも活用して優しい言葉を使うことを意識し、よい関わり合いをもつことができるよう取り組んでいます。



【2・4年生の取組】

クラスの中だけでなく、学校内ですれ違った人へのあいさつをもっとできるようになりたいという思いから、先生へのインタビューをしたり、チャレンジカードを実施したりしてあいさつの輪をひろげていく取組を考えました。また、『よいあいさつ』について知らせていくことも必要であると考え、動画を通して自分たちが考える『よいあいさつ』を示す取組も実施しました。さらに学校内だけではなく、地域の方ともよいあいさつを交わしていきたいという意見も出され、取組が広がってきています。

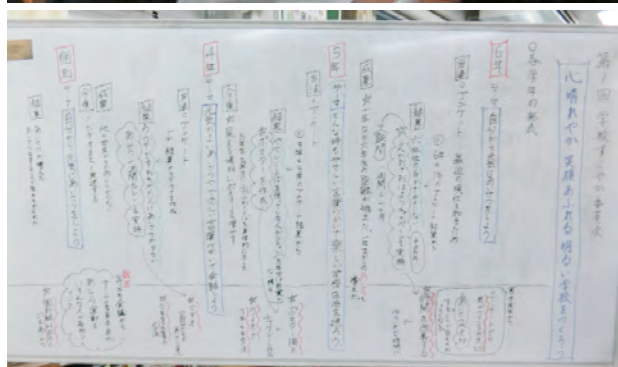
【個別級の取組】

毎朝、教室の前で友だちにあいさつをするを取り組みました。あいさつをすると気持ちがよいことがわかり、あいさつが増えてきています。交流級の友だちや他学年の友だち、先生にもあいさつをするように『あいさつかんばり賞』をつくり日常的に取組をすすめています。

3 今後に向けて

令和2年度を振り返り、健康の大切さ、自他の健康を守る、ということについて、これほど考えたことはなかったように思います。教育活動をすすめるにあたっては、ガイドラインに基づいた感染予防の徹底を視野に、可能な範囲を見極めてきました。子どもたちは、様々な制限のある中にもかかわらず、自己の健康課題に向き合い、柔軟に物事を考え、主体的な取組をしたことで成果を感じることができました。

学校教育目標の具現化を図るために、またこれまで本校が培ってきた健康教育が日常生活の中で行動化、実践化していくために歩みを止めず、教育活動の充実をめざして努力を続けていきたいと考えています。



〈調査研究委託事業〉

横浜市PTA連絡協議会研修会

『第一線で活躍する一流人の子ども時代の共通点』 ～学習やスポーツに即、活かせる集中力の高め方～

講演:森 健次郎 氏((株)集中力 代表取締役)

今年度の市P連研修会はコロナ禍の影響により、ホールに講師を招く従来通りのスタイルでの開催が難しいと判断し、初の試みとしてオンラインでの研修会実施といたしました。講師はオンラインでの講演が可能な方の中から選定し、元ミズノ株式会社社員で、現在は集中力プロデューサーとして全国で講演活動を実施されている、(株)集中力 代表取締役の森健次郎氏に依頼いたしました。森氏は1963年生まれの57歳。ミズノ株式会社勤務時代には、シドニー五輪で12の世界新記録を樹立した「サメ肌水着」の開発に携われ、奥様との死別を機にミズノ株式会社を退社。自宅で「元気塾」という小さな学習塾を始め、会社員時代に関わった、一流アスリート達の「日常や試合の本番での集中力アップ法」を実施。やがて「元気な大人」も作って欲しい!と企業からも講演・研修依頼が来るようになり、集中力プロデューサーとして活躍されておられる方です。

研修会は2020年11月18日、Zoomを用いてオンラインで開催し、森氏の経験に基づく、集中力を高める手段を学べるものでした。また、集中力の高め方ばかりではなく、最大限の能力を引き出すという観点からお話をされ、子育てについても言及があり、保護者としては大変示唆に富んだ内容であったと思います。一つの例として挙げておられたのが、ついつい、親としては言ってしまいがちな「早くしなさい」「早くしろ」という言葉も、その場限りの対策でしかなく、子どもを不快にするだけで、信頼関係を築きにくくしてしまうというのがありました。全く、耳の痛い話しでありました。パワーポイントを用いたお話しもオンラインならではの、図やイラストを多用した大変見やすいものでした。また、チャット機能により、双方向のコミュニケーションもでき、当初予定に

なかった質疑応答もチャットで質問を受けることで、行う事が出来ました。

この研修会の内容は録画しており、後日11月27～29日の期間、Youtubeにてアーカイブという形でPTA会員限定にて公開いたしました。参加された方からも、「自宅で見られるので、往復の手間がなくて良い」「リラックスして見られた」「家事をしながらでも見ることができた」「繰り返し再生できるので、確認しやすい」などオンラインならではのメリットも指摘され、例年300名程度の参加でしたが、今回は1500回再生ということで一応の成功を見たと感じております。また、耳の不自由な方にも見ていただけるよう、現在字幕付きの処理を進めています。12月25～27日の期間、前回同様Youtubeにて公開予定となっております。もちろんPTA会員すべての方がみることが出来ますので、更に視聴回数は増えるものと思われます。

コロナ禍において、市P連の活動が、保護者の皆さまへの情報提供の場となるよう、今後も様々な取組にチャレンジして参りたいと思います。



〈団体助成事業〉

横浜の子ども「みんな」が 弁当を作れるようになるために

2020横浜の子どもが作る弁当コンクールより 一般社団法人横浜すばいす

横浜すばいすでは子どもたちが毎日楽しく過ごすための原動力である「食」を中心とした活動を展開できたらと考えています。人間は生きるために食べますが、何をどのように食べるかによっても健康が左右され、その質も量も問われます。また、これから子どもたちにとって、食料は十分にあるかと言えば、貧困や飢餓にあえいでいる子どもたちがいるのも現実です。



いつの時代も子どもたちの健康は最優先ですが、このコンクールを通して地産地消や食品ロス・環境問題などについても考え、実践できる子どもたちを育てていければと考えています。

横浜の子どもが作る弁当コンクールのここがイネ

①テーマは毎年模索し、応募作品全てにコメントを記載し返却！

子どもたちに考えて欲しい食に関するテーマ、若しくはその年に相応しいテーマなどをタイムリーに決めます。一次（書類）審査では、紙面から子どもたちの思いを読みとり、応募された作品全てに審査員と横浜すばいすスタッフでコメントを記載し返却しています。

②保護者も学校も気持ちは一緒になって応援！

二次審査に参加する子どもたちは、家族や学校の先生に相談したり協力していただいたりなどいろいろな場面で連携をしています。

その分、表彰式では皆晴れやかな顔で嬉しそうです。今年は、先生方も当日はオンライン配信で応援してくださったようです。



③審査員が多彩！

長島（料理研究家）審査委員長をはじめ、市教委・JA横浜・横浜Fマリノス・崎陽軒・横浜市内の小・中・特別支援学校長会・家庭科研究会・食育研究会・栄養教諭栄養職員研究会・市P連・池商など多くの団体にそれぞれの目線で選んでいただくことができます。

④賞や賞品がいろいろ！

賞は14賞、今年は学校賞も追加！ 賞品は横浜すばいすからの図書券以外に、上記団体によるユニークな賞品もあり賑やかです。

料理が上手になって欲しいという願いで包丁や「せいろ」・ミキサー・弁当箱・エプロン・トートバックなどの調理関係品の他に、JA横浜からは段ボールいっぱいの野菜やマリノスからの選手のサイン入りユニフォームなどが渡されるときは、会場もどっと沸きます。子どもたちの緊張のほぐれた笑顔を見るのが楽しみです。

子どもたちの作品や表彰団体との記念写真はHPをご覧ください。

9月26日一次書類審査のようす



11月7日二次審査のようす
持参したお弁当を審査員が目視で確認！



お弁当のアピールタイム



表彰式のようす



2020年 第6回弁当コンクール

テーマ：体の免疫力を高める弁当を作ろう！



小学校	47校：435作品
中学校	10校：1024作品
特別支援学校	2校：24作品
合計：1483作品	



〈団体助成事業〉



はまみらいラボ 子ども会議

横浜の子どものためのSDGs実現に向けたチャレンジ!!
一般社団法人 横浜すばいす (はまみらい子ども会議支援チーム)





語りあおう!!

「子どもたちによる
子どもたちのための豊かな体験」

2020年1月18日(土)

会場: 横浜吉田中学校第二体育館
300名を超える子どもと大人が集まり、
子どもの豊かな体験を創り出しました。



リーダー
山本未来さん



2019年度



横浜バラまつり



こども遊園地 秋まつり



野島 クリスマス会

はまみらいアンバサダー 結成!



SDGs実現に
向けて
子どもの力を
結集しよう!!

太陽住建
おひさま広場にて

はまみらいアンバサダーの活動の一端を紹介します



感謝を伝える



海岸清掃活動



豪雨被災地を応援



水塔復活作戦



はまみらいを贈ろう



農作業体験

活動からの思いをマークに表し 世界に発信!!



2021年1月 アンバサダーメンバーがSDGs実現に向けた思いを市花はまみらいをモチーフにしたマークに表し、世界に向けて発信しました。

〈安振会年間事業〉

令和2年度安全教室

横浜市民防災センターの職員による講習と体験ツアー

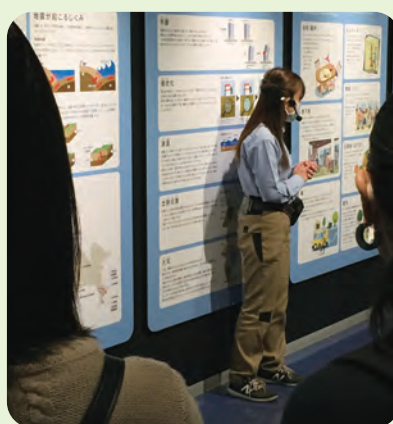
第1回	9月 8日(火)	8名
第2回	10月 8日(木)	19名
第3回	11月11日(水)	21名
第4回	12月 2日(水)	6名

会場：横浜市民防災センター

時間：10：20～12：00

内容：防災講和、地震等災害体験、減災トレーニング 等

今年度は救急救命法教室はコロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。防災安全教室は人数制限等の感染予防対策を講じ、防災センターにもご協力をいただき実施いたしました。



第34回「健康と安全」ポスター展

展 示 期 間：令和2年12月14日(月)～令和3年1月14日(木)

展 示 会 場：安振会ホームページ上

表彰式会場：関内新井ホール

応募点数…398点

受賞作品…特別賞14点 入選15点 佳作17点

審査委員…横浜市立中学校美術研究会会長

相原 裕 先生 (横浜市立下瀬谷中学校長)

…横浜市小学校図画工作教育研究会会長 江口 和良 先生 (横浜市立美しが丘西小学校長)



第34回「健康と安全」ポスター展 受賞作品



横浜市
市長賞



減らそう海洋ゴミ

白幡小学校5年 徳永 莉彩



横浜市
市長賞



遠くない未来

緑が丘中学校2年 吉濱 美玖



横浜市会
議長賞



一人一人の行動で明るい未来を

青葉台小学校5年 宇野 莉奈



横浜市会
議長賞



森の動物デモ隊

緑が丘中学校2年 守屋 千聖



横浜市教育委員会
教育長賞

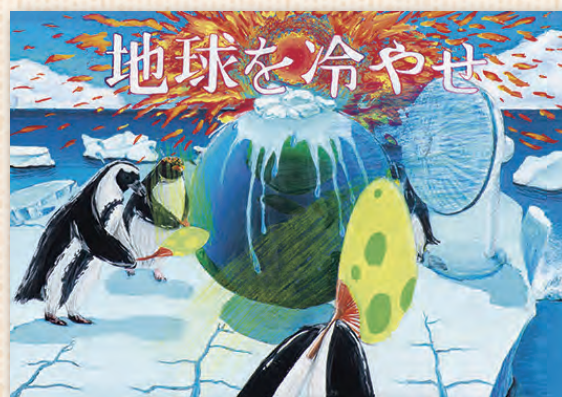


一人一人の大切な心がけ

三保小学校5年 鵜野沢 莉奈



横浜市教育委員会
教育長賞



地球を冷やせ

桂台中学校3年 森田 淳之助



一般財団法人
横浜市安全教育振興会
理事長賞



地球を守るう 崩壊中
上山小学校5年 齋藤 るう



一般財団法人
横浜市安全教育振興会
理事長賞



現在の環境
笹下中学校2年 葵 音生



横浜市PTA連絡協議会
会長賞



うつらない! うつさない!
美しが丘西小学校1年 加藤 壱悠



横浜市PTA連絡協議会
会長賞



豊かな緑で健康に
緑が丘中学校2年 金子 涼音



神奈川新聞社賞



ゲームやりすぎ注意
和泉小学校6年 新海 博章



神奈川新聞社賞



自然を大切に
笹下中学校3年 北原 風花



審査員特別賞



マスクをしよう!
本町小学校1年 東山 綾人



審査員特別賞



苦しむのは誰?
笹下中学校3年 榎本 彩

令和2年度 加入状況

校 種	賛助会員数	世帯数
小 学 校	337	140,939
中 学 校	131	64,676
高 等 学 校	5	4,212
特 別 支 援 学 校	12	1,459
総 計	485	211,286

(小学校には、横浜国大附属横浜小が含まれる)

令和2年度 評議員名簿

役職名	氏 名	備 考
評議員	鈴木 薫	横浜市立中学校長会 (総務・横浜市立篠原中学校長)
評議員	石塚 慶和	横浜市PTA連絡協議会(書記)
評議員	大槻 繁美	学識経験者((公財)よこはまユース 業務執行理事・事務局次長)
評議員	吉備 カヨ	学識経験者(元教育委員、(公財)横浜市 体育協会理事、認定NPO法人スペシャル オリンピックス日本・神奈川理事)
評議員	工藤 春治	学識経験者 (横浜市子ども会連絡協議会会長)
評議員	小泉 力也	学識経験者 (神奈川県立高等学校安振会評議員)
評議員	齊藤 達也	横浜市教育委員会代表(総務課長)
評議員	橋本 静江	横浜市PTA連絡協議会(副会長)

令和2年度 理事・監事・審査委員名簿

役職名	氏 名	備 考	
理 事 長	横田 竜一	学識経験者	○
副理事長	豊田 則夫	学識経験者	○
副理事長	竹本 靖代	学識経験者	○
専務理事	山元 泰弘	(一財)横浜市安全教育振興会事務局長	○
常務理事	森田 真	学識経験者	○
理 事	鈴木 秀高	学識経験者	
理 事	生田 麻実	学識経験者	
理 事	山下久美子	学識経験者	
理 事	海上 良太	学識経験者	
理 事	樋口眞砂子	学識経験者	
理 事	栗原 聰	学識経験者	
理 事	高木 伸之	横浜市立小学校長会(副会長)	○
理 事	高橋 浩二	横浜市立中学校長会(副会長)	○
理 事	小林 淳一	横浜市立特別支援学校長会(理事)	
理 事	秋好 直樹	横浜市PTA連絡協議会(会長)	○
理 事	飯 塚 昇	横浜市PTA連絡協議会(副会長)	○
理 事	白石 洋子	横浜市PTA連絡協議会(副会長)	
監 事	山手 英樹	横浜市立小学校長会(副会長)	
監 事	青木 潤	横浜市PTA連絡協議会(書記)	

○は審査委員兼務

審査委員	紺野 勉	横浜市医師会推薦	
審査委員	山崎 具基	横浜市医師会推薦	
審査委員	神保 裕紀	横浜市歯科医師会推薦	

令和2年度上期供花料等給付一覧

(令和2年4月1日～令和2年9月24日)

給付別種・事由	対 象	給付件数	給付額
供花料等	(1) 児童生徒供花料	児 童 4	120,000
		生 徒 2	60,000
	(2) 保護者供花料	小 学 校 20	600,000
		中 学 校 25	750,000
		高等・特別支援 1	30,000
	(3) 教職員供花料	1	26,040
	(4) 証明書代等	20	38,200
合 計		73	1,624,240

費 目	件 数	金 額
手数料等	(1) 振込手数料	67 31,130
	(2) その他手数料	0 0
合 計		67 31,130
支 払 総 額		1,655,370

令和2年度上期共済見舞金等給付一覧

(令和2年4月1日～令和2年9月24日)

給付別種・事由	対 象	給付件数	給付額
1 児童生徒事故見舞金	(1) 傷害事故	児 童 960	11,605,720
		生 徒 98	1,504,280
	(2) 障害	児 童 2	90,400
		生 徒 0	0
	(3) 交通事故	児 童 16	48,600
		生 徒 4	12,000
	小 計	1,080	13,261,000
2 児童生徒用慰金	(1) 学校管理下外事故死	児 童 1	500,000
		生 徒 1	500,000
	(2) 交通事故	児 童 1	200,000
		生 徒 0	0
	(3) 登下校中の交通事故死	児 童 0	0
		生 徒 0	0
	小 計	3	1,200,000
3 PTA主催共催事故見舞金	(1) 傷害事故	4	113,350
	(2) 障害	0	0
	(3) 交通事故	0	0
	(4) 事故死	0	0
	(5) 往復途次の交通事故死	0	0
	(6) 病死等	0	0
	小 計	4	113,350
4 学校特別見舞金	(1) 特別負傷見舞金	0	0
	(2) 特別交通事故見舞金	0	0
	(3) 死亡弔慰金	0	0
	小 計	0	0
合 計		1,087	14,574,350

費 目	件 数	金 額
手数料等	(1) 振込手数料	863 294,580
	(2) その他手数料	3 990
合 計		866 295,570
支 払 総 額		14,869,920

安全教育推進団体に対する助成

(令和2年12月現在)

申請のあった単位PTAに対する助成	1校4万円(上限)150校	5,999,150
区・部会PTA講演会研修会等助成		400,000
横浜市PTA連絡協議会事業助成		650,000
横浜市立小学校長会「専門研究事業」		300,000
横浜市立中学校長会指導部・研修部		300,000
(一社)横浜すばいす「横浜の子どもが作る弁当コンクール」「はまみらい子どもアンバサダー」		300,000
よこはま学校食育財団「食育推進事業親子料理教室」		30,000
第8回yokohama地域協働活動フォーラム		50,000
横浜市立特別支援学校長会「専門研究事業」		300,000
第72回関東甲信越地区中学校長会研究協議大会神奈川大会 ※第72回関東甲信越地区中学校長会研究協議大会神奈川大会は開催中止となりましたが経費が発生したため助成金戻入は求めませんでした。		200,000

令和2年度 区部会講演会研修会一覧

(令和2年12月現在)

区名	開催日	事業名	会場
港南	11/1～12月末	コロナ対策の為に準備事業	港南区PTA連絡協議会所属小中学校30校
栄	12/10～3/14	幹事会・指導者研修会・こども110番の家事業	栄区役所・栄公会堂

令和2年度 修学奨励金の給付

(令和2年12月現在)

第1回目			
小学校	192人	30,000	5,760,000
中学校	86人	40,000	3,440,000
高等学校	10人	60,000	600,000
特別支援学校	24人	40,000	960,000
計	312人		10,760,000

第2回目			
小学校	183人	30,000	5,490,000
中学校	86人	40,000	3,440,000
高等学校	10人	60,000	600,000
特別支援学校	23人	40,000	920,000
計	302人		10,450,000

令和2年度 賠償事故状況概要

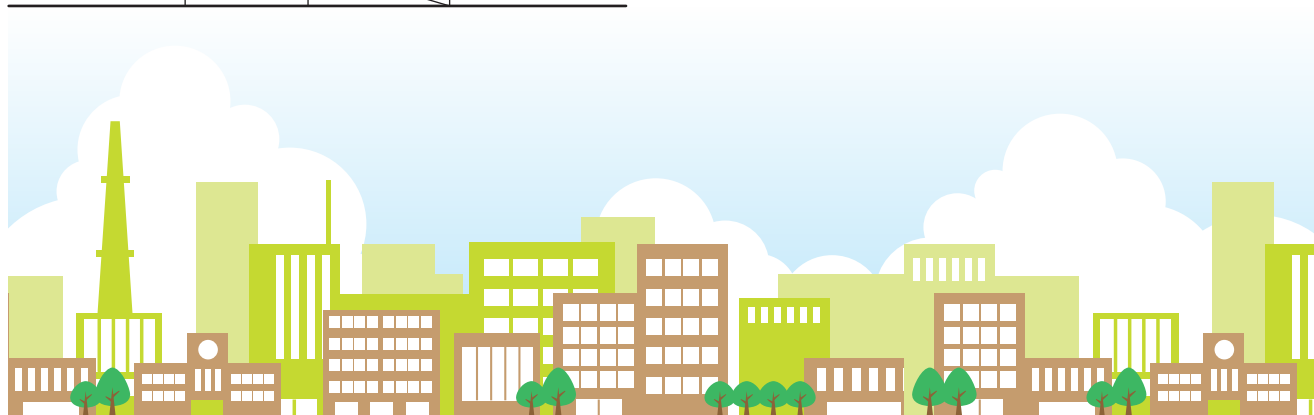
(令和2年12月現在)

総数	校内	校外	対人	対物			
				自動車	ガラス	メガネ	その他
11	1	10	4	3	2	1	1

ガラス破損の内訳				自動車破損の原因			
校内0件		校外2件		自転車	ボール	石	その他
小学校	中学校	小学校	中学校	2件	1件	0件	0件
0件	0件	1件	1件				

※高等学校及び特別支援学校はなし

自転車事故の内訳		
対車	対人	その他
2件	1件	0件



安全教育団体に対する助成

各団体における活動の一コマ

単P事業助成

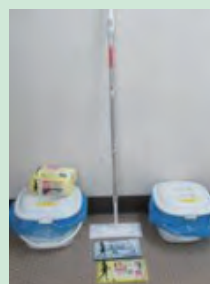
横浜市立高舟台小学校

事業名▶ 感染予防対策

今年はコロナウイルスの影響で様々な活動が制限される中、何か、子どもたちや先生、保護者の皆様のためにできることがないかを考え、学校内の感染予防に取り組みました。

石けん、除菌スプレー、モップなどを購入させて頂いたり、保護者の皆様から不用になった布などを回収させて頂いたりしました。

それらを学校の消毒活動に今も活用していただいています。



単P事業助成

横浜市立恩田小学校

事業名▶ 「みんなでつながろう エコバックプロジェクト」

今年度は、集まって行うイベントができなかったため、密にならずに全員参加できるイベントとして「みんなでつながろう エコバックプロジェクト」を考案しました。

児童が描いたデザインの中から児童の投票にてグランプリを選び、それを印刷したエコバックを製作しました。

みんなで使用することにより、地域内で一体感を作り防犯に繋げることも狙いの一つです。

今の時代にふさわしいイベントになったと思います。

今後は、自治体の方々にも使っていただき、さらにこのプロジェクトを拡げていければと考えています。



単P事業助成

横浜市立大鳥中学校

事業名▶ 環境美化活動の実施について

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、日頃のPTA活動が自粛されました。その様な中、大鳥中PTAは、学校行事中止ではなく、実施の協力体制を共に考えさせてもらいました。そこで、文化祭前の清掃、消毒を中心に提案しました。実施2週間前から体調管理、当日は安振会の援助で購入した非接触型の体温計を使用し、PTAの体調管理をしました。コロナ禍でも密にならない清掃や消毒活動を実施しました。翌日、生徒は安心して文化祭行事ができました。実施に向け協力できたこと、そして何より、生徒の笑顔が見られたことが大きな活動の成果でした。

